

# 研究説明書

## 【研究課題名】

成人領域に従事する言語聴覚士が小児言語聴覚療法を実施するために必要な要因

## 【背景】

現在、日本は少子高齢化をむかえている一方で、周産期医療を含む医療の進歩などを背景とした、認知・コミュニケーションに課題を有する子供の増加が問題視されています。しかし、認知・コミュニケーションに課題を有する子供への言語支援を行う小児領域の言語聴覚士は、日本言語聴覚士協会会員動向(2021)によると全体の23%で十分とは言えません。また、都内医療機関で言語聴覚療法が実施されている全施設310施設のうち、小児言語聴覚療法が実施されている小児施設は全体の約12%であり、小児の施設は成人の施設と比して圧倒的に少ない現状にあります。

この問題に対し、以前より「成人領域に従事している言語聴覚士による小児言語聴覚療法の対応が必要」という案が出ていますが、実現に至っていないことは小児言語聴覚療法に従事する言語聴覚士数、小児の施設数の少なさからも明らかです。この背景には成人分野の言語聴覚士が小児分野への参入が困難だと判断する複数の要因があると推測されますが、詳細に検討した研究は現時点ではありません。

## 【目的】

認知・コミュニケーションに課題を有する子供への支援の観点から、成人領域に従事している言語聴覚士が小児言語聴覚療法を実施するために必要な要因について検討することを目的とします。

## 【小児言語聴覚療法の定義】

本研究では、小児言語聴覚療法を、「就学前(0～6歳)の言語発達障害児に対する継続的な言語聴覚療法」とします。

## 【研究対象】

言語聴覚士(小児・成人領域にかかわらず)

## 【方法】

無記名式のWEBアンケートを実施します。時間は10分～15分です。はじめに勤務所在地、主たる勤務先、経験年数など属性に関する共通質問にお答えいただきます。その後、成人領域に従事する言語聴覚士が小児言語聴覚療法を実施するために必要な要因を11項目の中から「上位3つ」選択していただき、合わせて選択した理由も記述回答にてお答えいただきます。

## 【謝金】

研究協力に対する謝金はありません。

## 【研究参加による心身に対する負荷及び発生した負荷に対する対応】

研究協力による身体的・精神的な疲労を感じた場合は、直ちにアンケートの回答を中断・中止してください。身体的・精神的な疲労が解消されない場合は、近隣の医療機関を紹介します。そ

の場合の医療費は、研究対象者の負担となります。アンケートの回答を中断・中止したことによるあなた自身への不利益は一切ありません。

#### **【研究参加に対する意思決定】**

研究への協力は、あくまでもあなたの自由意思によるものです。従って、あなたの意思で研究への協力を断ったり、途中で中止しても、それによって、なんら不利益を被ることはありません。なお、WEB アンケートは無記名式で実施されるため、アンケート回答後の参加意思の撤回は出来ませんので、ご了承ください。

#### **【個人情報の保護】**

あなたの氏名や収集データは、個人が特定されないような処理を行って厳に秘密とし、全ての情報は研究者以外の他のものに入手不可能な管理下で厳重に保管されます。また、研究の成果は、個人の名前や個人を特定できるような情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌等で公表します。

#### **【倫理審査】**

本研究は、目白大学医学系研究倫理審査委員会の承認を得ています(承認番号 21 医研-007)。

#### **【アンケート調査参加方法】**

アンケート調査のご協力の意思をお持ちいただけただけの場合は、以下の QR コードもしくは URL よりアンケートへアクセスしていただき、ご回答をお願いいたします。



<https://forms.gle/QW6rbQpf1uLbUYEz9>

この研究は目白大学医学系研究倫理審査委員会の承認（承認番号 21 医研-007）を得て、研究にご協力いただく皆様に不利益がないよう万全の注意を払って行われています。本研究への協力に際して、ご意見ご質問などございましたら、気軽に安藤由起子にお尋ね下さい。

#### **【連絡先】**

目白大学大学院リハビリテーション学研究科 大学院生 安藤由起子

お問い合わせ先 e-mail : ykkn21rh@uni.mejiro.ac.jp (安藤由起子)

指導教員：目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科 後藤 多可志

〒339-8501 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷 320, TEL : 048-797-5448, E-mail : goto@mejiro.ac.jp